

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4171237号

(P4171237)

(45) 発行日 平成20年10月22日(2008.10.22)

(24) 登録日 平成20年8月15日(2008.8.15)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 77/20 (2006.01)

B 6 5 D 77/20 U

A 6 1 J 1/05 (2006.01)

A 6 1 J 1/00 3 1 3

B 6 5 D 25/20 (2006.01)

B 6 5 D 25/20 Q

B 6 5 D 43/16 (2006.01)

B 6 5 D 43/16 A

B 6 5 D 51/24 (2006.01)

B 6 5 D 51/24 D

請求項の数 6 (全 14 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2002-92191 (P2002-92191)
 (22) 出願日 平成14年3月28日(2002.3.28)
 (65) 公開番号 特開2003-285874 (P2003-285874A)
 (43) 公開日 平成15年10月7日(2003.10.7)
 審査請求日 平成17年3月14日(2005.3.14)

(73) 特許権者 391029325
 明星産商株式会社
 高知県高知市鴨部1丁目19番2号
 (74) 代理人 100148138
 弁理士 森本 聡
 (72) 発明者 大西 春二
 高知県高知市鴨部1丁目19番2号 明星
 産商株式会社内
 審査官 種子島 貴裕

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 包装容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内部に液含浸体 (C) を収容するために、上面が出入口 (12) として開口する容器本体 (1) と、

容器本体 (1) の出入口 (12) を密封する内側のシール蓋 (2) と、

容器本体 (1) の開口上面の外側を閉じる外蓋 (3) と、

外蓋 (3) の外表面に貼付される商品ラベル (4) とを備えており、

容器本体 (1) が、底壁 (5) と、底壁 (5) の外周から立ち上がる周側壁 (6) と、周側壁 (6) の上端外周に張り出し形成された水平状のフランジ壁 (10) とを含み、

シール蓋 (2) は、その外周縁部がフランジ壁 (10) の上面に剥離可能に固着されており、

外蓋 (3) は、シール蓋 (2) の上方を覆う主面壁 (19) と、主面壁 (19) につながっていて、フランジ壁 (10) の上面にシール蓋 (2) の外周縁部をはさんで接合するシール壁 (20) とを含み、

商品ラベル (4) は、印刷表示が入っていて、外蓋 (3) の主面壁 (19) の外表面に固着される主面部分 (32) と、主面部分 (32) につながっていて、外蓋 (3) の外周縁を越えて容器本体 (1) 側の壁面に固着されるヒンジ部分 (33) とを含んでおり、

商品ラベル (4) が、ヒートシール性能を有するプラスチックフィルム製のラベル基材 (4a) を含み、

ヒンジ部分 (33) のラベル基材 (4a) が、容器本体 (1) 側の壁面にヒートシール

10

20

されており、

商品ラベル(4)のラベル基材(4a)の表面に、接着剤(34)がストライプ状に塗布形成されており、

商品ラベル(4)の主面部分(32)は、接着剤(34)で外蓋(3)の主面壁(19)の外表面に貼付されており、

商品ラベル(4)のヒンジ部分(33)は、容器本体(1)側の壁面に対して接着剤(34)で接着され、かつ接着剤(34)間のラベル基材(4a)の部分がヒートシールされていることを特徴とする包装容器。

【請求項2】

容器本体(1)のフランジ壁(10)と外蓋(3)のシール壁(20)とには、シール蓋(2)の外周縁部を蛇行状に挟持する挟持手段(26・27)が、全周にわたってそれぞれ形成されている請求項1記載の包装容器。

【請求項3】

容器本体(1)に外蓋(3)を閉じた状態に保持するために、容器本体(1)のフランジ壁(10)の外周に形成された外周壁部(11)と、外蓋(2)のシール壁(20)の外周に形成された外周壁部(21)とに、互いに係合する係合手段(29・30)が設けられている請求項1記載の包装容器。

【請求項4】

容器本体(1)と外蓋(3)とは、それぞれ薄肉のプラスチック成形品であり、シール蓋(2)は、ガスバリア性を有するプラスチックフィルムからなり、シール蓋(2)の外周縁部がフランジ壁(10)の上面にヒートシールされている請求項1記載の包装容器。

【請求項5】

商品ラベル(4)のヒンジ部分(33)に、ミシン目(35)が入っている請求項1記載の包装容器。

【請求項6】

商品ラベル(4)のヒンジ部分(33)には、ミシン目(35)の両端近くに、ミシン目(35)と交差する向きの切込み(36)が形成されている請求項5記載の包装容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えばカット綿にアルコールなどの消毒液を含浸した多数の消毒綿などを入れるのに用いて好適な包装容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

例えば、病院などの医療施設では、注射をする際などに、カット綿にアルコールなどの消毒液を含浸した消毒綿が多数消費される。かかる消毒綿を収容する包装容器は、特開平11-268765号公報に公知である。そこでは、多数の消毒綿を収容する容器本体と、容器本体の開口上面を塞ぐ内蓋と、内蓋の中央に設けた出入口を開閉する外蓋とからなる。外蓋は内蓋の外側上面に粘着剤で接着されており、内蓋の出入口を外蓋で密封した状態で出荷される。外蓋を内蓋から引き剥がすように開放すると、出入口が露出して内部の消毒綿を取り出すことができる。不使用時には、外蓋を内蓋に再び接合することにより、出入口を塞ぐことができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

かかる従来の包装容器によれば、内蓋に外蓋を繰り返し接着できるので、容器本体内の消毒綿を使い終わるまで、消毒綿に含浸されたアルコールが蒸発するのを防ぎ、異物が容器内へ入り込むのもよく解消できる。しかし、そこでの出入口は、内蓋の中央部を限って設けられているため、小さ過ぎて消毒綿を取り出し難い。とくに、消毒綿の残量が少なくな

10

20

30

40

50

ると、消毒綿の取り出しに手間取る。ピンセットで消毒綿を取り出すとき、消毒綿が出入口の開口縁に引っ掛かりやすい。消毒綿を取り出す過程で、消毒綿に含浸のアルコールが滴り落ちて内蓋に付着し、この付着液が外蓋側の粘着剤に接触することにより、内蓋に対する外蓋の接着力が劣化して、密封機能が低下しやすい。外蓋の裏面側に粘着剤層を設ける形態なので、外蓋を捲るように開いた状態において表向きとなる粘着剤層に異物が付着しやすいことも、接着力が低下する原因になりやすい。

【0004】

本発明の目的は、容器本体の広い開口上面を液含浸体の出入口にして、液含浸体の出し入れが容易に行える包装容器を提供することにある。本発明の目的は、不使用時に出入口を確実に密封できる包装容器を提供することにある。

10

【0005】

本発明の目的は、容器本体の出入口を密封するシール蓋をいったん開封した後にも、出入口を繰り返し確実に密閉できる包装容器を提供することにある。

【0006】

本発明の目的は、容器本体から液含浸体を取り出す際に、液含浸体から含浸液がシール蓋や外蓋に滴り落ちて付着しても、シール作用の低下を招くことがなく、従ってシール蓋をいったん開封した後にも、容器本体内の液含浸体を乾燥したり、変質したりすることなく保管しておける包装容器を提供することにある。

【0007】

本発明の目的は、容器本体にシール蓋の上方を覆う外蓋が開閉可能に連結されている包装容器において、外蓋の外表面に貼付される商品ラベルをヒンジとして利用することにより、この点でも製造コストの低減化を図ることにある。

20

【0008】

本発明の目的は、外蓋の外表面に貼付の商品ラベルをヒンジとして利用した包装容器において、容器本体を閉じている外蓋が、温度や湿度の変化に伴って不用意に開放するのを阻止することにある。

【0009】

本発明の目的は、外蓋の外表面に貼付の商品ラベルをヒンジとして利用するに際し、外蓋の開閉によって商品ラベルのヒンジ部分が繰り返し屈曲されても破損するのをよく防止できる包装容器を提供することにある。

30

【0010】

本発明の目的は、外蓋の外表面に貼付の商品ラベルをヒンジとして利用するに際し、商品ラベルのヒンジ部分を容器本体に対して確りと固定でき、従って外蓋の開閉によって商品ラベルのヒンジ部分が繰り返し屈曲されても、ヒンジ部分が容器本体から剥がれ落ちるのを確実に防止できる包装容器を得ることにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

本発明の包装容器は、図1および図2に示すごとく、内部に液含浸体Cを収容するために、上面が出入口12として開口する容器本体1と、容器本体1の出入口12を密封する内側のシール蓋2と、容器本体1の開口上面の外側を閉じる外蓋3と、外蓋3の外表面に貼付される商品ラベル4とを備えている。液含浸体Cとしては、例えばカット綿にアルコールなどの消毒液を含浸させた消毒綿を挙げることができるが、とくに限定されない。

40

【0012】

容器本体1は、底壁5と、底壁5の外周から立ち上がる周側壁6と、周側壁6の上端外周に張り出し形成された水平状のフランジ壁10と、フランジ壁10の外周に形成された外周壁部11とを含む。

【0013】

シール蓋2は、その外周縁部がフランジ壁10の上面に剥離可能に固着される。ここでの固着とは、接着剤ないし粘着剤による接着、ヒートシール、超音波溶着などを含む概念である。

50

【 0 0 1 4 】

外蓋 3 は、シール蓋 2 の上方を覆う主面壁 1 9 と、主面壁 1 9 につながるシール壁 2 0 と、シール壁 2 0 の外周に形成された外周壁部 2 1 とを含み、容器本体 1 に外蓋 3 を閉じ合わせたとき、シール壁 2 0 がフランジ壁 1 0 の上面にシール蓋 2 の外周縁部をはさんで接合し、外蓋 3 の外周壁部 2 1 が容器本体 1 の外周壁部 1 1 に被さる。

【 0 0 1 5 】

商品ラベル 4 は、図 2 に示すごとく、印刷表示が入る主面部分 3 2 と、主面部分 3 2 につながるヒンジ部分 3 3 とを含み、主面部分 3 2 が外蓋 3 の主面壁 1 9 の外表面に固着され、ヒンジ部分 3 3 が外蓋 3 の外周縁を越えて容器本体 1 の外周壁部 1 1 の外面に固着されるようになっている。

10

【 0 0 1 6 】

容器本体 1 のフランジ壁 1 0 と外蓋 3 のシール壁 2 0 とには、図 1 に示すごとく、シール蓋 2 の外周縁部を蛇行状に挟持する挟持手段 2 6 ・ 2 7 が、全周にわたってそれぞれ形成されている。図示例では、挟持手段 2 6 ・ 2 7 として、フランジ壁 1 0 側に凸条 2 6 を、シール壁 2 0 側に凹条 2 7 をそれぞれ設けてある。シール壁 2 0 には、凹条 2 7 をはさむように、2 つの凸条 2 8 ・ 2 8 を設けてある。この点に関しては、フランジ壁 1 0 側に凹条 2 7 を、シール壁 2 0 側に凸条 2 6 を設けてあってもよく、両者 1 0 ・ 2 0 に凸条 2 6 ・ 2 8 を互い違い状に一条ずつ設けてあってもよい。

【 0 0 1 7 】

容器本体 1 に外蓋 3 を閉じた状態に保持するために、容器本体 1 の外周壁部 1 1 と外蓋 2 の外周壁部 2 1 とには、図 1 および図 2 に示すごとく、互いに係合する係合手段 2 9 ・ 3 0 が設けられている。この係合手段としては、例えば容器本体 1 側の外周壁部 1 1 に係合溝 3 0 を、外蓋 3 側の外周壁部 2 1 に突起 2 9 をそれぞれ設け、容器本体 1 に外蓋 3 を閉じたとき突起 2 9 と係合溝 3 0 とが、凹凸係合する形態を採ることができる。

20

【 0 0 1 8 】

更に具体的に説明すると、容器本体 1 と外蓋 3 とは、それぞれ薄肉のプラスチック成形品であり、容器本体 1 に外蓋 3 が商品ラベル 4 で開閉操作可能に連結されている。すなわち、商品ラベル 4 が、容器本体 1 に外蓋 3 を開閉自在に連結するためのヒンジの機能を果たす。

【 0 0 1 9 】

シール蓋 2 は、ガスバリア性を有するプラスチックフィルムからなり、シール蓋 2 の外周縁部がフランジ壁 1 0 の上面にヒートシールされている。

30

【 0 0 2 0 】

商品ラベル 4 は、図 2 に示すごとくヒートシール性能を有するプラスチックフィルム製のラベル基材 4 a を含み、ヒンジ部分 3 3 のラベル基材 4 a が容器本体 1 側の壁面にヒートシールされている。

【 0 0 2 1 】

商品ラベル 4 のラベル基材 4 a の表面には、図 7 に示すごとく、接着剤 3 4 をストライプ状に塗布形成し、商品ラベル 4 の主面部分 3 2 は、接着剤 3 4 で外蓋 3 の主面壁 1 9 の外表面に貼付する。また、商品ラベル 4 のヒンジ部分 3 3 は、容器本体 1 側の壁面に対して接着剤 3 4 で接着し、かつ接着剤 3 4 間のラベル基材 4 a の部分をヒートシールすることができる。

40

【 0 0 2 2 】

商品ラベル 4 のヒンジ部分 3 3 には、図 6 に示すごとく、ミシン目 3 5 を入れ、ミシン目 3 5 の両端近くに、ミシン目 3 5 と交差する向きの切込み 3 6 を形成しておくことができる。

【 0 0 2 3 】

【 作用 】

容器本体 1 内に液含浸体 C を収容した図 1 の出荷状態において、容器本体 1 の内部はシール蓋 2 で完全に密封されており、更にシール蓋 2 の上方外側が外蓋 3 で閉じられている。

50

その際、外蓋 3 はシール蓋 2 が他物と接触して損傷するのを防止する。容器本体 1 から液含浸体 C を取り出す際には、ユーザーが商品ラベル 4 をヒンジにして外蓋 3 を開き操作したのち、容器本体 1 からシール蓋 2 を引き剥がす。これで容器本体 1 の開口上面の出入口 1 2 が大きく開放するので、この出入口 1 2 から液含浸体 C を一つずつ容易にピックアップできる。容器本体 1 内の液含浸体 C を使い切るまでは、容器本体 1 にシール蓋 2 を再び被せ付けて外蓋 3 を閉じ合わせる。

【 0 0 2 4 】

シール蓋 2 が開封されるまでの期間は長い。この点を考慮すると、シール蓋 2 はこれの外周縁部を容器本体 1 のフランジ壁 1 0 にヒートシールして確実に出入口 1 2 を密封しておくことが望まれる。その場合、ユーザーがいったんシール蓋 2 を開封すると、シール蓋 2 の外周縁部は前記フランジ壁 1 0 に再接着できない。しかし、シール蓋 2 を開放した後は、短期間のうちに液含浸体 C が消費し尽くされるのが常である。そこで、容器本体 1 に外蓋 3 を閉じ合わせたとき、容器本体 1 のフランジ壁 1 0 と外蓋 3 のシール壁 2 0 との間に挟持手段 2 6 ・ 2 7 を設けてあり、この挟持手段 2 6 ・ 2 7 でシール蓋 2 の外周縁部が蛇行状に挟持される。これにて、容器本体 1 内を密封状態に維持しておくことができる。

【 0 0 2 5 】

【 発明の効果 】

本発明の包装容器によれば、ユーザーがシール蓋 2 を開封したとき、容器本体 1 の開口上面がそのまま出入口 1 2 として大きく開放する。従って、この出入口 1 2 から液含浸体 C を簡単に取り出すことができる。

【 0 0 2 6 】

シール蓋 2 の開封後、次に液含浸体 C を取り出すまでの間は、出入口 1 2 をシール蓋 2 で塞いだのち、容器本体 1 に外蓋 3 を閉じ合わせると、両者 1 ・ 3 の係合手段 2 9 ・ 3 0 で外蓋 3 が閉じ状態に保持される。これで容器本体 1 のフランジ壁 1 0 と、外蓋 3 のシール壁 2 0 とに設けた挟持手段 2 6 ・ 2 7 が、シール蓋 2 の外周縁部を蛇行状に挟み込まれて、シール機能が有効に発揮され、液含浸体 C の含浸液の蒸発や、外気の出入りを確実に防止できる。従って、いったんシール蓋 2 を開封した後も、出入口 1 2 を繰り返し密封し、液含浸体 C を使い切るまでは適正な状態に保存できる。

【 0 0 2 7 】

開封後は外蓋 3 と本体容器 1 とでシール蓋 2 を挟持する形態としたので、液含浸体 C の取り出し時にこれから含浸液が滴り落ちてもしール作用が低下することはない。従って、開封後の液含浸体 C の保存期間が長期にわたるような場合にも、液含浸体 C が乾燥したり、変質したりするのをよく防止できる。

【 0 0 2 8 】

容器本体 1 と外蓋 3 とが、それぞれ薄肉のプラスチック成形品からなるときは、軽量にして安価に量産できる。外蓋 2 は容器本体 1 に商品ラベル 4 で開閉操作可能に連結されており、商品ラベル 4 これ自体がヒンジ機能を果たすので、専用のヒンジを省略できる分だけ、包装容器の全体構造を簡素化を図り、製造コストの低減化を図れる。

【 0 0 2 9 】

シール蓋 2 がガスバリア性を有するプラスチックフィルムからなるときは、シール蓋 2 の外周縁部をフランジ壁 1 0 の上面にヒートシールすることができる。従って、本発明の包装容器は、出荷後にシール蓋 2 が開封されるまでに長期間を経ても、液含浸体 C に含浸の液が蒸発するのを確実に防止する。

【 0 0 3 0 】

商品ラベル 4 のラベル基材 4 a がヒートシール性能を有するプラスチックフィルムからなるときは、ヒンジ部分 3 3 のラベル基材 4 a を容器本体 1 側の壁面に対してヒートシールすることにより、ヒンジ部分 3 3 が小面積であっても、容器本体 1 側にヒンジ部分 3 3 を確実に固着できる。従って、外蓋 3 を繰り返し開閉操作しても、商品ラベル 4 のヒンジ部分 3 3 が不用意に剥がれて、容器本体 1 と外蓋 3 とがバラバラに分離することはない。

【 0 0 3 1 】

本発明の商品ラベル 4 において、そのラベル基材 4 a の表面に接着剤 3 4 がストライプ状に形成されていると、ラベル基材 4 a に接着剤 3 4 がベタ塗り状態で全面的に塗布形成されている形態とは異なり、接着剤 3 4 の使用量が少なく済み、製造コストを低減化できる。商品ラベル 4 の主面部分 3 2 は、広い面積を持っているので、この主面部分 3 2 を外蓋 3 の主面壁 1 9 の外表面に確りと接着固定できる。使用後は、商品ラベル 4 を外蓋 3 から剥ぎ取りやすくなるので、外蓋 3 と商品ラベル 4 との分別回収による再利用にも有利である。商品ラベル 4 のヒンジ部分 3 3 は、容器本体 1 側の壁面に対して、ストライプ状の接着剤 3 4 で仮接着して位置決めしたのち、接着剤 3 4 どうしの間をヒートシールできるので、ヒンジ部分 3 3 を皺付きなく端面にかつ確りと固着できることにもなる。

【 0 0 3 2 】

商品ラベル 4 のヒンジ部分 3 3 にミシン目 3 5 が入っていると、商品ラベル 4 の材質にかかわらず、ヒンジ部分 3 3 がミシン目 3 5 の存在で屈曲しやすくなるので、容器本体 1 に対して外蓋 3 を容易に開閉操作できるし、外蓋 3 を半開き状態にならず完全に開き切ることができる。とくに商品ラベル 4 が紙製の場合、温度や湿度の変化に伴って商品ラベル 4 が縮んでヒンジ部分 3 3 に引っ張り力が作用し、容器本体 1 に閉じ合わせた外蓋 3 が不用意に半開き状態になりやすい。この点、ヒンジ部分 3 3 にミシン目 3 5 を入れてあると、ミシン目 3 5 がヒンジ部分 3 3 に及ぶ引っ張り力を吸収するので、容器本体 1 から外蓋 3 が不用意に開くことがない。

【 0 0 3 3 】

一方、外蓋 3 を繰り返し開閉すると、商品ラベル 4 のヒンジ部分 3 3 がミシン目 3 5 に沿って破れやすくなる。この点、ヒンジ部分 3 3 において、前記ミシン目 3 5 の両端近くに切込み 3 6 が形成されていると、ヒンジ部分 3 3 の側端縁からの破れ目 3 7 は切込み 3 6 に達して止まり、破れ目 3 7 が切込み 3 6 より内側のミシン目 3 5 にそのまま連続状に成長して行くのを阻止して、ヒンジ部分 3 3 の切断を防止する。

【 0 0 3 4 】

【発明の実施の形態】

(第 1 実施例) 図 1 ないし図 7 は本発明に係る包装容器の第 1 実施例を示す。本発明の包装容器は、図 1 および図 2 に示すごとく、滅菌済みのカット綿に消毒用アルコールが含浸された消毒綿 C (液含浸体) の包装用に供され、さらに消毒綿 C の使用を開始した後は保存容器としても使用される。保存容器として使用する場合には、内部の消毒綿 C を使

【 0 0 3 5 】

包装容器は、上面が開く容器本体 1 と、容器本体 1 の開口上面の内側を密封するシール蓋 2 と、容器本体 1 の開口上面の上方を閉じる外蓋 3 と、外蓋 3 の外表面に貼付される商品ラベル 4 とからなる。

【 0 0 3 6 】

容器本体 1 は、半透明のポリプロピレンからなる薄肉のプラスチック成形品であり、正四角形の底壁 5 と、底壁 5 の外周から上拡がり状に立ち上がる正四角筒状の周側壁 6 とを有する。周側壁 6 には、底壁 5 にわたって、縦向きに走る多数の補強用リブ 8 が一体に膨出形成されている。

【 0 0 3 7 】

図 1 において周側壁 6 の上端外周には、水平状のフランジ壁 1 0 が張り出し形成されており、フランジ壁 1 0 の外周に外周壁部 1 1 が立ち上げ形成されている。周側壁 6 で囲まれた開口上面が、消毒綿 C の出入口 1 2 になっている。シール蓋 2 は、これの外周縁部をフランジ壁 1 0 の上面に剥離可能に固着することにより、出入口 1 2 の全面を塞いで容器本体 1 内を密封する。

【 0 0 3 8 】

図 4 において外周壁部 1 1 は、フランジ壁 1 0 の外周縁から立ち上がる内周側壁 1 3 と、

10

20

30

40

50

内周側壁 13 の上端縁から外向きに張り出された水平状の受壁 14 と、受壁 14 の外周縁に連続して下向きに折れ曲がる外周側壁 15 とからなる。

【0039】

シール蓋 2 は、四角形状に形成した透明なプラスチックフィルムからなり、後述するように、その外周縁部がフランジ壁 10 の上面にヒートシールされる。容器本体 1 の前面側に臨むシール蓋 2 の外周縁には、図 2 に示すごとくひとつの舌片 17 が一体に突出形成されており、この舌片 17 をつかんでシール蓋 2 を上方へ引き剥がすことができる。容器本体 1 に外蓋 3 を閉じ合わせたとき、舌片 17 は容器本体 1 の外周壁部 11 に沿って折り曲げられて、外蓋 3 で押え保持される。符号 18 は、舌片 17 の位置を明示するためにシール蓋 2 に印刷した表示である。シール蓋 2 の形成素材としては、ガスバリア性を備えており、さらにアルコールに耐性を有する軟らかなプラスチックフィルムの 1 種、あるいは複数種のプラスチックフィルムを積層した複合プラスチックフィルムが好適である。

10

【0040】

外蓋 3 は、出入口 12 の上方を覆う四角形状の主面壁 19 と、主面壁 19 の外周縁に連続して下方に凹み形成されてフランジ壁 10 の上面にシール蓋 2 の外周縁部をはさんで接合するシール壁 20 と、シール壁 20 の外周縁から立ち上がる外周壁部 21 とを備えており、容器本体 1 と同様に半透明のポリプロピレンからなる薄肉のプラスチック成形品である。

【0041】

図 1 において外周壁部 21 は、シール壁 20 の外周縁に連続して上向きに立ち上がる周側壁 22 と、周側壁 22 の上端に連続して横向きに張り出し形成された水平状の鍔壁 23 とからなる。図 5 に示すように鍔壁 23 の前縁の左右両隅は、容器本体 1 の受壁 14 の隅部から外方へ突出しており、この突出部分が外蓋 3 を開閉する際の指掛片 24 になっている。

20

【0042】

シール蓋 2 は、後縁部を残して前方および左右の三方周縁部を上方に引き剥がして出入口 12 を開放する。シール蓋 2 は、いったん開封したのちも、容器本体 1 内の消毒綿 C を使い切るまで容器本体 1 の内部を可及的に密封状態に閉じる機能を与えておく必要がある。そのために、図 1 に示すように容器本体 1 のフランジ壁 10 と外蓋 3 のシール壁 20 とには、互いに嵌合してシール蓋 2 の外周縁部を上下方向から挟持する凸条 26 と凹条 27 とが全周にわたってそれぞれ形成されている。

30

【0043】

詳しくは、図 1 および図 2 に示すごとくフランジ壁 10 の上面側に凸条 26 を全周にわたって形成する。一方、シール壁 20 の下面側には、一対の凸条 28・28 を全周にわたって下向きに突出形成し、これら両凸条 28・28 間に、フランジ壁 10 側の前記凸条 26 が嵌合する凹条 27 を形成してある。これにてシール蓋 2 の外周縁部は、3 個の凸条 28・26・28 に沿って蛇行状に変形されて、蛇行部分がフランジ壁 10 とシール壁 20 との対向面間で挟み付けられることになる。従って、いったんシール蓋 2 を開封しても、シール蓋 2 で出入口 12 を繰り返し密封するのに支障はない。図 4 に示すように、出荷状態におけるシール蓋 2 は、フランジ壁 10 の凸条 26 において全周にわたり線状にヒートシールされている。符号 31 はこのヒートシール個所を示す。

40

【0044】

容器本体 1 に外蓋 3 を閉じ合わせてシール蓋 2 で出入口 12 を密封した状態において、外蓋 3 を閉じ状態に保持しておく必要がある。そのために、容器本体 1 の外周壁部 11 と外蓋 3 の外周壁部 21 との間には、互いに凹凸係合する係合手段 29・30 が設けられている。詳しくは、図 1 および図 2 に示すように、外蓋 3 の周側壁 22 の前辺および左右辺の中央上部に、外向きに突出する長いリブ状の突起 29 を設け、容器本体 1 の内周側壁 13 の四辺の中央部下端に、該突起 29 が嵌入係合する長い係合溝 30 を設けてある。

【0045】

商品ラベル 4 は、外蓋 3 の主面壁 19 の外表面に貼り付けられる主面部分 32 と、主面部

50

分 3 2 の後縁に連続して設けられるヒンジ部分 3 3 とを含む。商品ラベル 4 は、図 2 に示すごとくポリエチレンテレフタレートなどのヒートシール性能を有するプラスチックフィルム製のラベル基材 4 a 上に、印刷特性を有する紙などの印刷層 4 b を一体に積層した複合シートからなり、とくに主面部分 3 2 における印刷層 4 b に消毒綿 C の薬学上の仕様や効能、および使用上の注意、製造者の表示などが印刷されている。

【 0 0 4 6 】

図 7 において商品ラベル 4 のラベル基材 4 a の裏側表面には、多数本の接着剤 3 4 がストライプ状に塗布形成されている。商品ラベル 4 は主面部分 3 2 を外蓋 3 の主面壁 1 9 の外表面に接着剤 3 4 で貼付した後、図 6 に示すようにヒンジ部分 3 3 を外蓋 3 の鍔壁 2 3 の後端縁を越えて容器本体 1 の外周側壁 1 5 の外表面に接着剤 3 4 で貼り付け、さらに外周側壁 1 5 に貼付したヒンジ部分 3 3 のうち、ストライプ状の接着剤 3 4 の間に露出するラベル基材部分をヒートシールする。図 7 において符号 3 9 はヒートシールした部分を示す。

【 0 0 4 7 】

これにより、容器本体 1 の外周側壁 1 5 に対して、ヒンジ部分 3 3 は接着剤 3 4 の接着作用とヒートシール作用とで強固に固定できる。かくして、外蓋 3 は図 3 に示すように容器本体 1 に対し商品ラベル 4 をヒンジとして開閉自在に連結できる。

【 0 0 4 8 】

温度や湿度の変化に伴い、とくに過乾燥状態になると、商品ラベル 4 の紙製の印刷層 4 b が縮むように変形し、この変形力によって容器本体 1 に装着されている外蓋 3 が不用意に開くことがある。これを阻止するために、図 6 に示すごとくヒンジ部分 3 3 には、容器本体 1 と外蓋 3 とをつなぐ部位に、左右方向に走る直線状のミシン目 3 5 ・ 3 5 が二列平行に入っている。すなわち、ヒンジ部分 3 3 は、図 3 に示すごとく容器本体 1 の外周側壁 1 5 の外面において折れ曲がってヒンジ中心 3 3 a を形成するが、ミシン目 3 5 ・ 3 5 は、ヒンジ中心 3 3 a を間に挟むように位置する。これによれば、ミシン目 3 5 で外蓋 3 が開閉操作しやすくなる。更にミシン目 3 5 は商品ラベル 4 の変形力を吸収し、外蓋 3 を閉じ状態に維持し続ける。

【 0 0 4 9 】

外蓋 3 を繰り返し開閉操作したとき、前記ヒンジ中心 3 3 a が側端縁から破れることがある。ミシン目 3 5 を入れてあると、なお更に破れやすい。その際に、破れ目 3 7 がミシン目 3 5 に繋がると、破れ目 3 7 はミシン目 3 5 に沿って成長し、いずれはヒンジ部分 3 3 の切断に至る。このような破れ目 3 7 の成長を阻止するために、図 6 に示すようにミシン目 3 5 の左右両端寄りには、ミシン目 3 5 と交差する向きの切込み 3 6 が形成されている。これによれば、破れ目 3 7 が切込み 3 6 に達すると、新たな破れ目は切込み 3 6 の前後端から成長しやすくなるので、破れ目 3 7 が切込み 3 6 より内側のミシン目 3 5 に直接に連続するのを良く防止できる。

【 0 0 5 0 】

以上のように消毒綿 C を収容した包装容器を使用する場合には、外蓋 3 を反転状に後ろ側へ大きく開いた後、舌片 1 7 をつまんでシール蓋 2 を引き剥がして開封操作し、出入口 1 2 を開放する。このとき、シール蓋 2 で出入口 1 2 を再び密封するときの位置ずれを避けるために、シール蓋 2 の後縁部分はヒートシールされた状態のまま残しておく。このようにシール蓋 2 を開放し、出入口 1 2 の殆どを開放した状態で容器本体 1 内の消毒綿 C をピンセットで取り出す。その際、シール蓋 2 に邪魔されずに消毒綿 C を最後の一つまで容易に取り出せる。消毒綿 C を使い切ってしまうことが予想される場合には、シール蓋 2 を完全に引き剥がして除去してもよい。消毒綿 C を取り出す過程で、消毒綿 C に含浸のアルコールが滴り落ちることがあっても、その液滴はシール蓋 2 か容器本体 1 に付着するだけであり、何ら不都合を生じない。

【 0 0 5 1 】

消毒綿 C を使い残した場合には、シール蓋 2 で出入口 1 2 を塞ぐ。次に、外蓋 3 を閉じ合わせて、前記突起 2 9 と前記溝 3 0 とで外蓋 3 を閉じ状態に保持すると、シール蓋 2 で容

10

20

30

40

50

器本体 1 内を密閉することができる。フランジ壁 10 とシール壁 20 とに設けた凸条 26 と凹条 27 とでシール蓋 2 の外周縁部が蛇行状になって挟持することにより、消毒綿 C からのアルコール分の蒸気および外気の出入りを確実に防止する。従って、いったんシール蓋 2 を開封しても、出入口 12 を繰り返し密封できる。

【0052】

(第2実施例) 容器本体 1 の大きさは、内部に収容する消毒綿 C の個数に応じて、その大きさを自由に変更できる。例えば、図 8 に示すように容器本体 1 の高さを大きくして、200 個の消毒綿 C が収容できるようにしてもよい。

【0053】

(第3実施例) 商品ラベル 4 における接着剤 34 の塗布パターンは、図 9 に示すように横向きのストライプ状に形成してもよい。この場合のヒンジ部分 33 は、左右幅方向の全長にわたってヒートシールすることができる。ミシン目 35 は、図 9 に示すように 1 列だけで形成してもよい。

【0054】

(第4実施例) 図 10 は本発明の第4実施例を示す。この場合の容器本体 1 は、フランジ壁 10 の外周に外周壁部 11 が斜め下向きに連設されている。外蓋 3 は主面壁 19 の外周部分がシール壁 20 になっており、シール壁 20 の前方および左右の三方外周縁に外周壁部 21 が斜め下向きに連設されている。商品ラベル 4 は、主面部分 32 が外蓋 3 の主面壁 19 の外表面に接着され、主面部分 32 の後端につながるヒンジ部分 33 が容器本体 1 の外周壁部 11 の後辺の外面に接着されている。

【0055】

第4実施例によれば、容器本体 1 に外蓋 3 を閉じ合わせるとき、外蓋 3 の外周壁部 21 の下端周縁に設けた係合部 41 が容器本体 1 側に外周壁部 11 の下端周縁に回り込み係合して、外蓋 3 が閉じた状態に保持される。その他の構成は、実質的に第1実施例と同じであるから、同一部材には同一符号を付して説明を省略する。

【0056】

(第5実施例) 図 11 は本発明に係る包装容器の第5実施例を示す。この場合の外蓋 3 は、主面壁 19 の外周部分がシール壁 20 になっており、シール壁 20 の前方および左右の三方外周縁に外周壁部 21 が下向きに連出している。商品ラベル 4 は、主面部分 32 が外蓋 3 の主面壁 19 の外表面に接着され、主面部分 32 の後端につながるヒンジ部分 33 が、容器本体 1 のフランジ壁 10 の後辺の下面に回り込んで接着されている。

【0057】

第5実施例によれば、容器本体 1 に蓋体 3 を閉じ合わせるとき、外蓋 3 の外周壁部 21 に設けた係合部 41 が、容器本体 1 側のフランジ壁 10 の外周縁の下方に回り込み係合して、外蓋 3 が閉じた状態に保持される。その他の構成は、実質的に第1実施例と同じであるから、同一部材には同一符号を付して説明を省略する。

【0058】

上記の実施例以外に、液含浸体 C としては、滅菌済みのカット綿に過酸化水素水やヨードチンキなどの薬剤を含浸させた消毒綿であってもよく、あるいは化粧水やクレンジング液を含浸させたカット綿であってもよい。さらに、含浸液を含ませるための担体としては、カット綿に限られず、任意形状の綿塊や球状に丸めた綿塊であってもよいし、滅菌処理された不織布を四角形状にカットしたマットや、面棒のような棒状体であってもよい。

【0059】

容器本体 1 の四角形である必要はなく、円形、楕円形、あるいは多角形など必要に応じて任意形状を採用できる。ミシン目 35 はジグザグに形成してあってもよい。商品ラベル 4 における接着剤 34 の塗布パターンは、前後方向に対して斜めになるよう形成されていてもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】外蓋を閉じた状態での包装容器の縦断側面図

【図2】包装容器の構成部材を分解して示す斜視図

10

20

30

40

50

- 【図 3】外蓋を開放した状態での包装容器の側面図
【図 4】シール蓋のヒートシール部分を拡大して示す縦断面図
【図 5】外蓋の隅部の形状を拡大して示す平面図
【図 6】包装容器のヒンジ部分を示す背面図
【図 7】商品ラベルにおける接着剤の塗布パターンを示す底面図
【図 8】本発明の第 2 実施例を示す包装容器の側面図
【図 9】本発明の第 3 実施例を示す商品ラベルの底面図
【図 10】本発明の第 4 実施例を示す包装容器の縦断側面図
【図 11】本発明の第 5 実施例を示す包装容器の縦断側面図

【符号の説明】

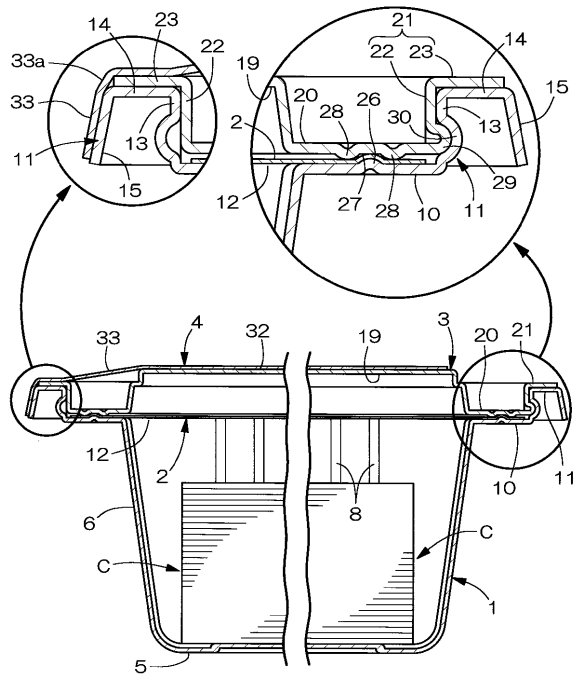
- 1 容器本体
2 シール蓋
3 外蓋
4 商品ラベル
4 a 商品ラベルのラベル基材
10 フランジ壁
11 容器本体の外周壁部
19 主面壁
20 シール壁
21 外蓋の外周壁部
26 凸条
27 凹条
29 突起
30 係合溝
32 商品ラベルの主面部分
33 商品ラベルのヒンジ部分
34 接着剤
35 ミシン目
36 切込み
C 液含浸体

10

20

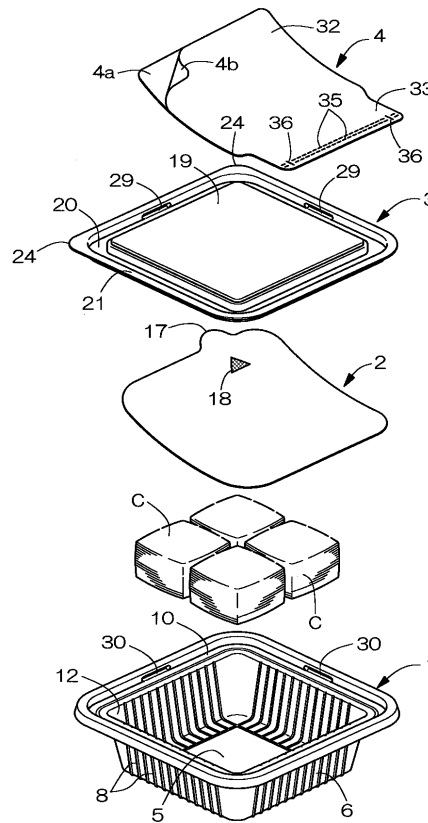
30

【図 1】

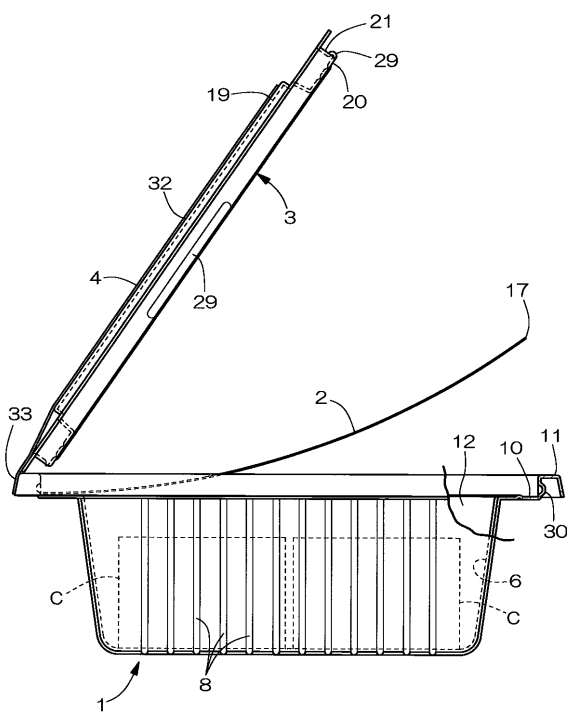


- | | | | |
|---------|----------|---------|--------|
| 1 容器本体 | 5 底壁 | 12 出入口 | 26 凸条 |
| 2 シール蓋 | 6 周側壁 | 19 主面壁 | 27 凹条 |
| 3 外蓋 | 10 フランジ壁 | 20 シール壁 | 29 突起 |
| 4 商品ラベル | 11 外周壁部 | 21 係合壁部 | 30 係合溝 |

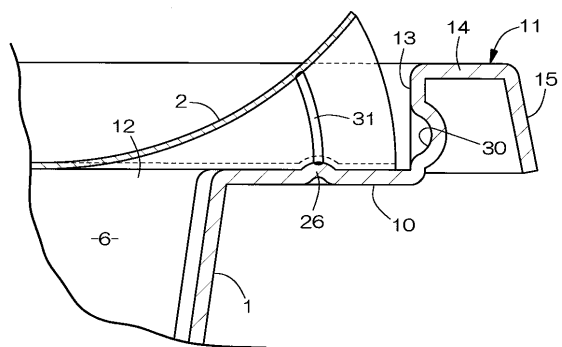
【図 2】



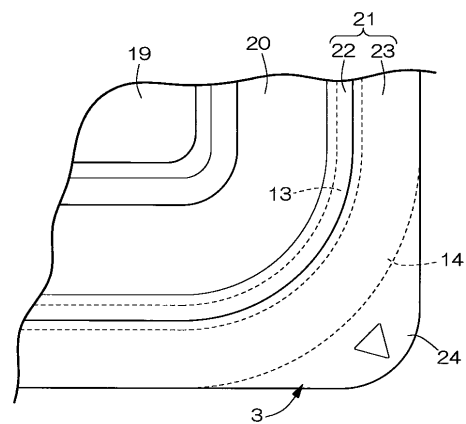
【図 3】



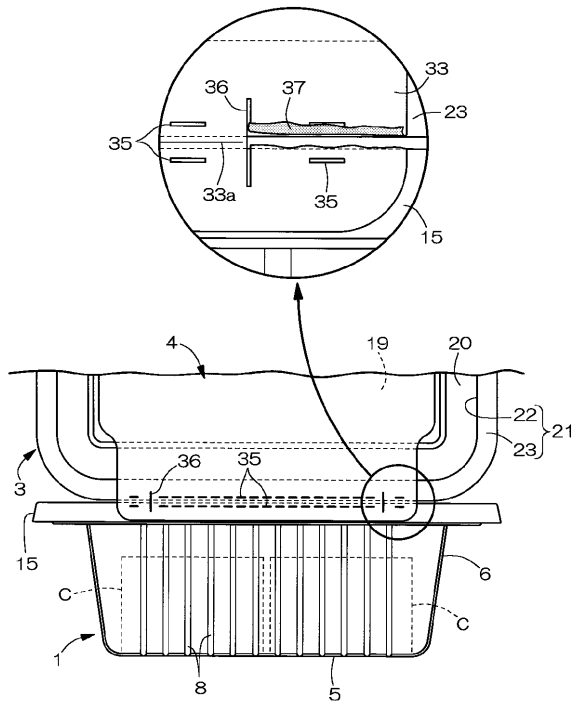
【図 4】



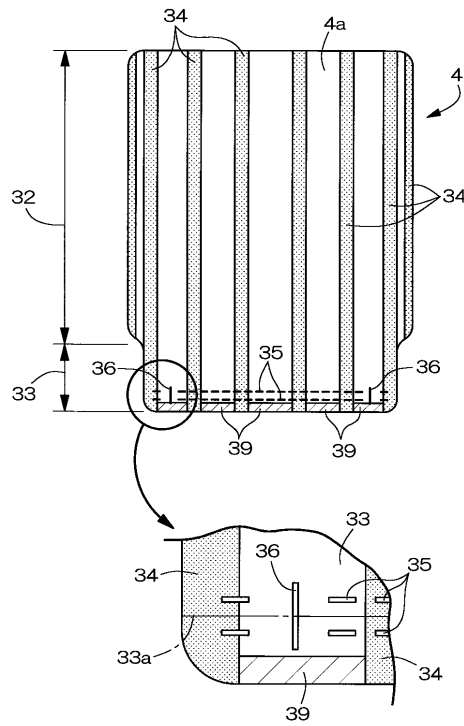
【図 5】



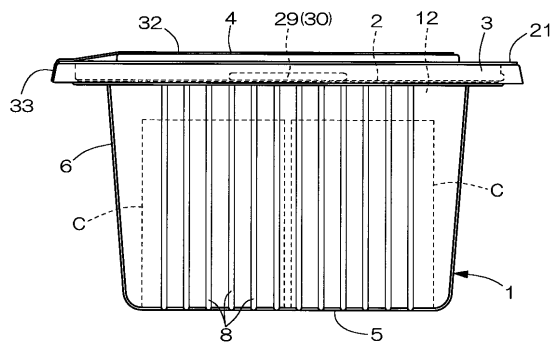
【図 6】



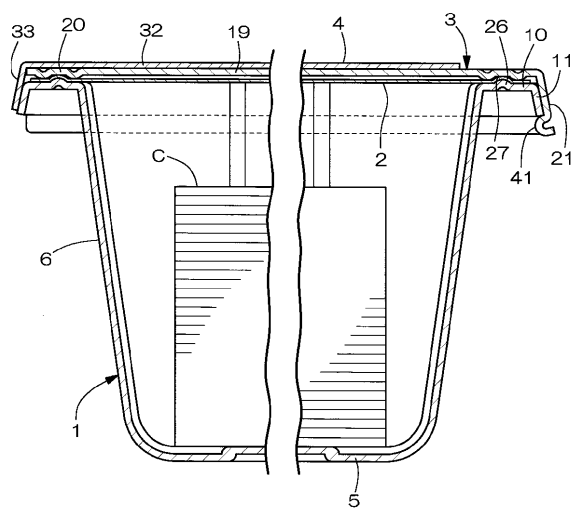
【図 7】



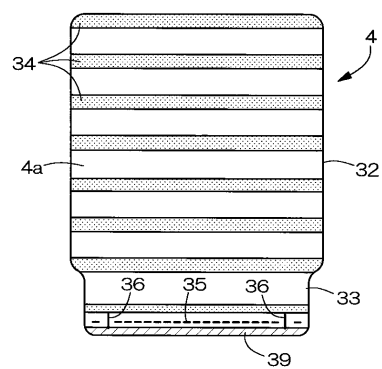
【図 8】



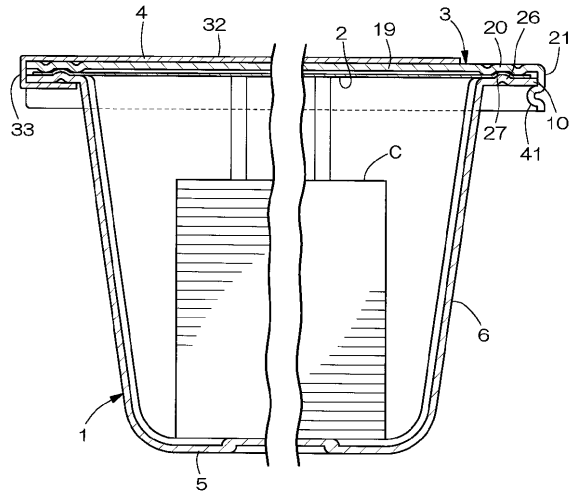
【図 10】



【図 9】



【図 11】



 フロントページの続き

(51)Int.Cl.			F I		
B 6 5 D	53/00	(2006.01)	B 6 5 D	53/00	Z
B 6 5 D	77/22	(2006.01)	B 6 5 D	77/22	
G 0 9 F	3/00	(2006.01)	G 0 9 F	3/00	Q
G 0 9 F	3/04	(2006.01)	G 0 9 F	3/04	C
G 0 9 F	3/10	(2006.01)	G 0 9 F	3/10	A

(56)参考文献 特開 2 0 0 1 - 3 2 8 6 6 6 (J P , A)
 実開平 0 2 - 1 0 2 3 8 3 (J P , U)
 実開昭 6 3 - 0 2 6 5 5 5 (J P , U)
 実開平 0 1 - 0 7 6 4 0 6 (J P , U)
 登録実用新案第 3 0 0 9 8 3 8 (J P , U)
 実用新案登録第 2 5 9 9 9 3 6 (J P , Y 2)
 実公平 0 6 - 0 0 3 4 2 3 (J P , Y 2)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B65D 77/20
 A61J 1/05
 B65D 25/20
 B65D 43/16
 B65D 51/24
 B65D 53/00
 B65D 77/22
 G09F 3/00
 G09F 3/04
 G09F 3/10